（別添２）

医師のプロフェッショナリズムを踏まえた到達目標の在り方に関する研究
（中間報告）

分担研究者：野村 英樹（杏林大学）

○　臨床研修の基本理念に謳われる「医師としての人格の涵養」を具体化させるとの観点から、「プロフェッショナリズム」を医師の能力（コンピテンシー）の一つととらえ、医師としてのプロフェッショナリズムの最終到達像、および、そこから遡った臨床研修修了時の中間目標の検討が必要と考えた。その参考とするため、学会や民間、海外のプロフェッショナリズムならびにキャリア形成のコンピテンシー策定に関する取り組みについて情報収集を行った。

＜日本医学教育学会＞

・「医師のプロフェッショナリズムの最終到達像と各節目における中間目標案」(別紙参照)
（日本医学教育学会倫理・プロフェッショナリズム委員会）
現在、日本医学教育学会 HP において意見募集中

・セミナー「プロフェッショナリズム教育のコンセンサスを形成しよう」報告書
（日本医学教育学会倫理・プロフェッショナリズム委員会、平成 26 年 11 月 22 日）

・「キャリア継続のための学習目標（案)」
（日本医学教育学会女性医師キャリア教育検討委員会）

＜日本外科学会＞

・「日本医学会分科会における女性医師支援の現況に関する調査報告書」
（女性外科医支援委員会、平 24 年 5 月）

＜全国医学部長病院長会議＞

・平成 23 年度（2011 年）女性医師の就労環境に関する実態調査

＜他職種におけるキャリア教育＞

・企業におけるキャリア開発支援

＜米国 ACGME＞

・ACGME milestones: Internal Medicine, Emergency Medicine, Family Medicine

＜米国 AAME＞

・Careers in Medicine

＜英国 NHS＞

・NHS careers

（別紙）

医師のプロフェッショナリズムの最終到達像と各節目における中間目標案

（日本医学教育学会 倫理・プロフェッショナリズム委員会）

【社会における医師】

１．社会的使命への貢献

・医師という職業は、損なわれやすい健康という基本的価値を人々に提供する重要な役割を社会から託され、その役割に生涯かけて貢献することを前提として、法的に業務および名称独占権が与えられ、さらに高い経済的報酬や名声も約束されている。このため医師は、常に医師に対する社会のニーズに対する感受性を保ち、個人として、ならびに専門職集団としてそのニーズに応えることができているかどうかを振り返り、ニーズに応えるためのあらゆる方策を実行する能力の修得に努め続ける。そのことを自己実現の目標の一つとする価値観を医師たちが共有することを通じて、医師はこの責務を全うする。

a. 研修修了時の到達目標：

1. 医師に対する社会の真のニーズを、常に深く掘り下げて理解するよう努めている
2. システムの中で社会のニーズに応えられる個人として成長するために、今後の臨床・学習の場や内容を計画している
3. 共に社会のニーズに応えて行くべき専門職集団（プロフェッション）の一員として、ピア・レビューを積極的に受けている

b. 医学部卒業時の到達目標：

1. 社会的使命を負う医師という職業を、自らの生涯の職業として受け容れている
2. 全ての医師が、共に社会のニーズに応えて行くべき専門職集団（プロフェッション）の一員であることを認知的に理解し、自らの生涯の職業として受け容れている

c. 臨床実習開始時の到達目標：

1. 医師が社会的使命を負う存在であることを認知的に理解している

d. 医学部入学時の選抜基準：

1. メディアやインターネット上の医療関連情報を読み、それについて自ら考察している

注：時間的により後ろに位置する到達目標では、それ以前の時点における到達目標が達成されていることを前提として記載している。以下のカテゴリーにおいても同様。

２．支援を受ける姿勢と支援する姿勢

・医師は、多くの社会資源を投じて公的に育成されており、医師自身が公的な性格を持った社会資源である。加えて、多くの先達や同僚、医師以外の多くの他職種、そして何よりも患者やその家族、一般市民からも、無償の支援を受けて成長する。医師は、それらの支援に対し感謝の心を持つとともに、それらの支援が社会的使命に貢献する医師を育てるために行われるものであると受け止め、良質な医療を提供できるよう他の医師を支援することも専門職集団の責務であることを認識し、自らも惜しまず他者を支援する。

・教育も知の伝授を介した支援であるが、医師は後進の教育のみならず、同僚や先達、患者やその家族、あるいは社会とも積極的に知を共有（共育）する姿勢を持つ。

a. 研修修了時の到達目標：

1. 後輩医師に対する教育や支援を自らの役割の一つとして受け容れ、積極的に関与している
2. 同僚医師やメディカルスタッフ、事務職・介護職・福祉職、患者やその家族、一般市民に対して、積極的に自らの知を共有し、業務や学習を支援している

b. 医学部卒業時の到達目標：

1. 医師免許という国家資格を授かる者として、患者やその家族を含め多くの人々が、将来社会的使命を負う存在として援助してくれたことを認識し、感謝の心を持って、社会的使命への貢献を宣言している
2. 後輩や同僚との間で、定期的に知を共有する仕組みを作っている、あるいは参加している

c. 臨床実習開始時の到達目標：

1. 医学生に対して、多くの社会資源が投じられていることを認識し、その期待に応えるべく学習に取り組んでいる

d. 医学部入学時の選抜基準：

1. 医師の養成は社会的要請によって行われていることを認識している

３．医師としての信頼に値する道徳性

・医療は本質的に不確実性を孕んでいるが、提供された医療が望まれた結果をもたらさなかった場合、その原因が医療の不確実性によるものか、医療側の不誠実や能力の欠如によるものか、患者やその家族が知識の面で判断することは難しく、医療側の人格や道徳性に対する信頼で判断する外はない。また医師は、職業遂行上、患者個人の、場合によってはその家族も含めた情報的および身体的プライバシーに触れる必要があるが、人は、相手を信頼して初めてプライバシーを開示することができる。

・これらのことから、医師は個人として、さらには専門職集団として、患者や社会からの信頼に値する道徳性を身に着けるべく、常に高みを目指して行動する。信頼に値する道徳性には、社会人としてのマナーや法令遵守も含まれるが、その上に、職業によって相応しい道徳性がある。

医師は、医師という職業に最も必要な現在および未来の傷病者を含めた弱者の保護の道徳性を常に発揮し、次いで公正性、その次に自他の自律の尊重の順で、道徳性を発揮する。
・弱者の保護は、医業の実践そのものであるが、疾病予防の重視や、儚く物言わぬ生命を守護する生命倫理感を含む。公正性には、誠実さ、平等な医療の提供、利益相反の適切な管理、限りある資源の公正な分配、説明責任、守秘義務の遵守などを含む。

a. 研修修了時の到達目標：
1. 研究や著述などにおいて、不正行為を働いたり、虚偽を含めることがない

b. 医学部卒業時の到達目標：
1. 患者やその家族に対する説明責任を果たし、嘘をつくことがない
2. 置かれている環境の中で、可能な限り予防医療の実践に努めている

c. 臨床実習開始時の到達目標：
1. 患者やその家族のプライバシーに配慮し、守秘義務を厳守している
2. 医師の利益相反の問題に関心を持ち、疑わしい行為への誘いを人間関係を壊さずに断ることができる
3. 生命倫理に関心を持っている
4. 社会人として相応しい良識ある行動を取っている

d. 医学部入学時の選抜基準：
1. 医師という職業は、患者や社会からの信頼の上に成り立つことを認識し、受け容れている
2. 学業上の不正、日常生活においても法に触れる行為は絶対に行わない

【組織やチーム、対人関係における医師】

４．多様な価値観の受容と性差への対応
・医師は、職業上は前述の社会的使命への貢献を価値観として共有するが、その他の点（例えば政治や宗教、結婚や家庭や育児や介護など）では医師の間でも異なる価値観がある。また、医師の周辺には異なる価値観を持つ職能があり、さらに、患者やその家族や一般市民はさらにさまざまな価値観を持っている。医師は、このような異なる価値観を持つ人々の存在を受容し、耳を傾ける柔軟な姿勢を持つ。
・医師は、生物学的性差と社会的性差を正しく認識し、組織や社会における社会的性差を克服して男女が協働するために努力する。

a. 研修修了時の到達目標：
1. 生物学的性差と社会的性差を正しく認識し、組織や社会における社会的性差を克服するよう努める
2. 医師の間でも、政治や宗教、結婚や家庭や育児や介護などの面で異なる価値観があること

を受け容れ、価値観の相違をお互いの理解の機会と捉える

b. 医学部卒業時の到達目標：

1. 傷病や妊娠、家庭の事情などで変則的な勤務を行っている医師や他の職員の存在を受け容れ、積極的に支援する
2. 職業上異なる価値観を持つ人々と協働する

c. 臨床実習開始時の到達目標：

1. 患者や家族にはさまざまな価値観があることを認識し、受け容れる
2. 他の医療職を目指す学生と交流し、それぞれに異なる価値観があることを認識し、受け容れる

d. 医学部入学時の選抜基準：

1. 異なる価値観を持つ友人（同級生）とも交流する

５．組織やチームのリーダー／フォロワーとしての役割

・医師の働く場は医療機関を飛び出して拡がりを見せているが、いずこにおいても医師が単独で機能することはできない。医師は、まずは組織やチームの一員として、時にはリーダーとして、様々な医師や他職種、患者やその家族も含めて連携して、個人ではなし得ない成果を挙げる能力を発揮する。これには、礼儀や礼節を含めた適切なコミュニケーションにより人間関係を構築し、目的や目標を共有して協働する能力が含まれる。また、組織の維持自体が自己目的化し、社会的使命の遂行や医師としての道徳性に悖ることのないよう留意する。

a. 研修修了時の到達目標：

1. 患者の抱える問題を解決するために、積極的に他の医師や他職種に情報を伝え、調整するハブの役割を果たしている
2. 医療機関という組織の一員として、システムの改善のための活動（質の改善、患者安全など）に参加している

b. 医学部卒業時の到達目標：

1. 医療チームの中で役割を持ち、適切に相談・報告・連絡を行っている

c. 臨床実習開始時の到達目標：

1. チームの一員として、進んで自らの役割を見出し、リーダーや他のメンバーに協力し、必要な時にはリーダーや他のメンバーに相談している

d. 医学部入学時の選抜基準：

1. 他者に関心を持ち、基本的な礼儀や礼節を弁え、他者の意見に耳を傾け、質問をし、自らの考えを述べている

６．人間性と患者中心の視点

・共感・同情・慈悲は、弱者保護の道徳性の基盤である。医師は、患者を単なる傷病を有する個人としてのみならず、様々な人間関係やそれに伴う感情を持ち、経済的・文化的な活動も行う生　活者として理解した上で共感し、思いやり、患者の自律性を尊重した良好な患者-医師関係を構築して、医療のみならず社会的支援や介護・福祉の必要性も含めて配慮する。

a. 研修修了時の到達目標：

1. 患者の自律性を尊重した病状・選択肢の説明を行っている
2. 病を持つ患者の生活を支援するため、介護・福祉制度の利用や、社会的支援の獲得に向けた調整を行っている

b. 医学部卒業時の到達目標：

1. 患者やその家族と、医学医療以外の話題でもコミュニケーションを取り、チーム内での意思決定においてその情報を役立てている

c. 臨床実習開始時の到達目標：

1. ボランティア活動（医療に限らない）やコミュニティ活動などに参加し（カリキュラムの一環でも可)、支援を必要とする人々や疾病を持つ人々、あるいは一般生活者と人間的なコミュニケーションを取っている

d. 医学部入学時の選抜基準：

1. 傷病を持つ人の生活や感情に関心を持ち、自己学習している

【個人としての医師】

７．卓越性の追求と生涯学習

・医学に関わり情報量が膨大化し、一人の医師が全てを把握することは不可能となった上に、医学の進歩は目まぐるしく、情報は日々更新されている。このため医師は、常に学習を続け、かつ情報を鵜呑みにせず批判的に吟味した上で、常に自己の能力を自己最高のレベルに保つことを通じて、社会の信頼を得る努力を生涯続ける。また、社会のニーズの変化やそれに伴う制度の変更などにより、重要なパラダイムの転換にも積極的に対応する。

・そのために医師は、自己のパフォーマンスを自ら振り返り、自己の限界を知り、360°からのフィードバックを受け容れ、教育を受けて行動を変える能力を持つ。

・また医師は、研究や学術集会での発表などを通じて、医学の進歩に貢献する努力を続ける。さらに、自らが所属する組織などにおいて提供される医療の質の向上に努力する。

a. 研修修了時の到達目標：

1. 自ら進んで指導者の評価を受け、助言を受けて自己のパフォーマンスを改善する
2. 学会発表（地方会、症例報告を含む）の準備を行い、指導者や同僚の助言を繰り返し受けて、より良いものに仕上げる努力を行った上で発表する
3. 医学雑誌のコンテンツを定期的にチェックし、新たなエビデンスを吟味し、自分の診療を改善する

b. 医学部卒業時の到達目標：

1. 日々の臨床経験の中で疑問点を挙げ、複数の情報源にあたって自ら学習を進める
2. カンファレンスで積極的に発表し、また他者の発表に質問や意見を述べる

c. 臨床実習開始時の到達目標：

1. 自分の知らないことをそのままにせず、質問をしたり、テキストを調べたりして疑問を解決する
2. EBM のステップ 1～4 を、時間をかけても実践する

d. 医学部入学時の選抜基準：

1. 学校の課題や受験のための勉強以外に、興味を持ったことについて図書館やインターネットなどで調べて学習している
2. 辞書を使いながら、英語で書かれた科学記事を読むことができる

８．自己管理とキャリア形成

・医師は、極めて大きな責務を負う職業であり、かつ家庭人や社会人としても信頼に値する役割が期待されている。そのため、時間という限られた資源を有効に活用する必要があり、時間管理の能力は重要である。また、他者にとっても時間資源は限られたものであることを認識し、信頼の維持のためにも診療や会合の時間を守る。

・また医師は、社会的使命を全うするために、さらには健康という価値を提供することを役割とする立場としてロールモデルとなるためにも、自らの健康に留意する。

・医師は、それぞれのスペシャリティ、サブスペシャリティにおいて多くのことを、場合によっては異なった環境で学ぶ必要があり、一人前となるまでに長い時間を要する職業である。その過程においては、いくつかの予測可能な、そして予測不可能なライフイベントが発生する。そのため、複数の多様な将来像の中から、予測されるライフイベントも考慮し、また先輩などからのアドバイスを求めて、当面の学習計画を立案する。また予想外のライフイベントやその他の状況の変化に応じて、柔軟に計画を修正する能力を持つ。

a. 研修修了時の到達目標：

1. 5～10 年程度先までの自分なりのキャリアプランを持っている

b. 医学部卒業時の到達目標：

1. 複数のキャリアに興味を持ち、様々なキャリアの医師と交流する
2. 結婚や出産、子育て、親の介護などについて、経験者などの話を積極的に聞き、主体的に自らのキャリアを考える

c. 臨床実習開始時の到達目標：
1. 成人後も喫煙や過度の飲酒を避け、運動の習慣を持つ
2. 家族やアルバイトなどの社会関係を良好に保ち、自らの役割を果たす

d. 医学部入学時の選抜基準：
1. 時間を守り、不測の事態で時間が守れない時には関係者に連絡する